

マルティネルの街角で

YKI 国際特許事務所 弁理士◇葦原 エミ

Vol. 1 その称呼、ホント！？

ちょっと昔、初のパリ出張を前にした同僚が、訪問先の住所を手にして、真顔で聞いてきた。

「葦原さん、パリに住んでましたよね。このチャンプス・エリシーズ通りってどのへんか分かりますか？」

「チャンプス……？ これ、シャンゼリゼですよ！」

「ええっ！？ これ(Champs-Elysees)、『シャンゼリゼ』って読むんですかあ？」

無理もない。フランス語は英語的に考えれば、絶対変だ。

Champs-Elysees の「P」

はどこ行っちゃったの？

「シャ」じゃなくって「チャ」でしょうが。しかも「ゼ」なんてどこにもないじゃない？

でも、フランス語の発音規則からいえば、これは誰が読んでも立派な「シャンゼリゼ」なのである(で、その規則さえ身につけてしまえば、英語より簡単に読めるはず)。

ついでに、有名なシャンソン「オー・シャンゼリゼ」の「オー」も「Oh！」という感嘆詞ではない。「Aux」という立派なフランス語(前置詞+冠詞の合体)で、「シャンゼリゼで」って意味合いになる。

「オークス」じゃないんだな、コレが。

同じような話。

「今度、ザビエルさんが来るんですが、ご存じですか？」

「はい、スペインからですか？ フランシスコ・ザビエルさんでしょうか？ 面識、ありませんねえ……」

来日者はフランス人だった。故に本当の発音はおそらく「グザヴィエ」さん。ザビエルとグザヴィエは同じスペルなんですって！ と知って、フランスかぶれの私は驚いた。

では、これが商標だったら？

いや、Xavier をフランス語読みする日本人なんて、そうそういません。「グザヴィエ」はとりあえず無視しましょう。さすがに「エクサヴィアー」と読む人はいないでしょう。

きっと自然な称呼は「ザビエル」です。特許庁だってちゃんと称呼を認定して……いるのかな？？？

試しにIPDLで「Xavier」の文字商標を検索してみたら、2件ヒットして、1件は「ザビアー、ザビエル」、もう

1件は「ザビアー、グザビエ」。同じスペルでなぜ異なる！？

ブツが違うから？ ま、ここに出ている称呼は単なる「参考情報」ですから、各人で悩んでください(ってこと？)。

商標の仕事をしていると、「商標の外観・観念・称呼を比較して」なんて、サラッとってしまう。でも、海外から日本にヒョロッと入ってきた商標が、必ずしも出願人の意図した読み方で読まれるとは限らない(ということ、多くのnon-Japaneseは忘れているかもしれない)。

だから、海外のクライアントには「日本人が自然に読むであろう発音と違うようなら、カタカナでも権利

化を」と話してみたりもする。

でも、最高裁だって「L'air du temps」を正しく読んだのだ。そう神経をとがらせる必要はないかも(平成10年(行ヒ)第85号審決取消請求事件)。

でも、ニナリッチ(Nina Ricci)が有名でなかったとしたら？

あなた、「レール・デュ・タン」って読みました？



※ 撮影協力: デリリウムカフェトキヨー (霞が関)